

【渡島管内】保護者・児童が参画する本に親しむ環境づくり(八雲町立山越小学校)



保護者による読み聞かせの様子

保護者による読み聞かせ会の実施

山越小学校では「みんなの読書語り」という時間を設定し、授業参観日に合わせて年3回、保護者によるおすすめ本の読み聞かせが行われています。読む本は、事前に教員と保護者で相談して種類や内容を決めており、読み聞かせた後は学校図書館に展示されるなど、児童の学校図書館利用のきっかけとなっています。また、会に参加した他の保護者が、紹介された本の魅力を知り、各家庭で購入して読むという動きもあり、家庭で本に親しむ環境づくりにつながっています。

児童が主体的に活動する学校図書館

全校児童8名の山越小では、図書委員が中心となって、読書スタンプラリーの企画・運営をしたり、開館日カレンダーの作成や購入希望図書のアンケートを実施したりするなど、児童が主体的に学校図書館の運営に関わっています。また、図書委員会では、自作のお話を絵本にする活動もしており、創作した児童本人が学校図書館で作品の読み聞かせをする機会を設けるなど、様々な視点から本に親しむ環境づくりを行っています。



自作絵本を先生や友だちに披露

【釧路管内】読書への興味を引き立たせる環境づくり(厚岸町立真龍小学校)



↑地域の方の工作と
関連本の展示
↔くま館長

居心地のいい学校図書館づくりから始まる読書活動

真龍小の学校図書館では、「くま館長」が子どもたちを温かく迎えます。本の紹介POPや読書イベントの掲示、オススメ本や季節行事に関連する装飾などが、子どもたちの興味を引きます。また、図書館の中央部には背の低い本棚が並んでおり、子どもの目線を遮ることなく図書館全体を見渡すことができ、安心感があります。「図書館に行きたい」「楽しい」「落ち着く」がつまった居心地のよい環境づくりに、学校司書や子ども、教職員、ボランティアなど学校全体で取り組んでいます。

多くの本との出会い、そして選書力向上へ

子どもや教職員が読んだ本を紹介するコーナー「読書伝言板」、町図書館と連携したブックフェスティバル、ボランティアの「真龍おはなし隊」や「ちいさな絵本箱」による読み聞かせなど、子どもたちが様々な本に出会えるような取組を行っています。また、自由な読書を大切にしながら、子どもが自分に合った本を自ら選ぶ力（選書力）が高まるように、内容や文章量等を分かりやすくレベル分けしたり、常駐する学校司書が本選びの手伝いをしたりしています。



“レベル分け”された本棚
上段：レベル3 内容がしっかりしている本
下段：レベル2 短くておもしろい本